

There is evidence that dinosaurs were already on the way out, even if an asteroid* did deliver the final blow. The fossil record shows that the number of dinosaur types dropped 70% between 73 million and 65 million years ago. "What caused the decline? was it a change in climate? A change in ocean currents? The changing distribution of plants?"

Whatever the reason, Horner insists that the more interesting and surprising question is how the dinosaurs managed to hang on for so long. Humans should be as lucky. "It was only 80 years from the time that Darwin published *On the Origin of Species* until we detonated* the first nuclear bomb," he says. (1) "In the lifetime of one person, we went from figuring out where we came from to figuring out how to get rid of ourselves." (2) When the history of life on earth is complete, Horner suspects, the world's most beloved extinct creatures may have outlived their admirers by some 100 million years. (東大後期・理系)

(注) asteroid: 小惑星 detonate: 爆発させる

内容を読めるかどうかを問う問題。一般教養・背景知識がなければ、文法・構文の知識だけでは対処できない。

下線部(1) In the lifetime of one person が、直前の *It was only 80 years from the time that Darwin published *On the Origin of Species* until we detonated the first nuclear bomb,* の 80 years に対応していることは容易に見抜くことができるはずだ。また *we went* 以下は *we went from A to B* の形で、A, Bともに *figuring out* + 間接疑問文であることを理解するのも難しことではない。ただし、*figure out* という頻出する熟語の意味は正確に知っておく必要がある。

figure out: *come to understand or discover by thinking* であり、日本語の訳語としては「理解する」と「解明する/解決する」の両方が考えられるが、本問の場合は、頻度の高い「理解する」は当てはまらない。

get rid of ~ であるが、*rid* は過去分詞であり、「~から抜け出す」が原義だが、「~を取り除く」の意味に用いることが多く、「取り除く」の意味の幅は広い。

下線部(2) 全体の構造は、言うまでもなく *Horner suspects that when the history of life on earth is complete, the world's most beloved extinct creatures may have outlived their admirers by some 100 million years.* の変形である。したがって、下線部(1)と同様、ポイントは文構造の把握ではなく、内容の把握である。

suspect that ... ≒ *think that ...* / *doubt that ...* ≒ *don't think that ...* は基本知識だが、*is complete* の訳には工夫がいる。*is completed* に近い意味に取れたかどうか。

may have outlived は少々難しいかもしれない。これを過去の推量とすると *when* 節の時制と矛盾する。しかし *will have outlived* ならば簡単に(未来完了と)わかるはずだ。その *will* が、*will* よりも可能性の低い *may* に変わっただけであり、あくまでも未来完了の推量である(現在完了の推量ではない)。

[全訳]

たとえ小惑星が実際に最後の一撃を加えたとしても、恐竜はすでに絶滅しかけていたという証拠がある。化石の記録は、7,300万年前から6,500万年前にかけて恐竜の種類が70%減少したことを示している。「何がこの減少を引き起こしたのか。気候の変化だったのか。海流の変化だったのか。植物の分布の変化だったのか」

こうした減少を引き起こした理由が何であろうと、もっと興味ぶかく驚くべき問題は、恐竜はどうやってこれほど長い間生き残ることができたのかということである、とホーナーは主張する。人間も幸運な点では恐竜と変わらないはずである。「ダーウィンが『種の起源』を発表した時から私たちが最初の核爆弾を爆発させるまで、わずか80年だった」と彼は言う。(1)「一人の人間の一生に当たる時間のうちに、私たち人類は、人類の起源を解明することから、人類を絶滅させる方法を考え出すことまでやってしまったのだ」(2)地球上の生命の歴史が完結するとき、世界で最も愛されている絶滅した生き物である恐竜は、その崇拝者である人間よりも約1億年、長生きしたことになるかもしれない、とホーナーは考えている。

※Humans should be as lucky (as the dinosaurs were). かつて地球を支配していた恐竜と、現在地球を支配している人間の対比である。

※the history of life on earth is complete 「地球上の生命の歴史が完結する」は核戦争によって地球上の生物が絶滅することを示唆している。

The importance of human gestures has been greatly underestimated. Students of linguistics are everywhere, and the analysis of human languages is a widely accepted scientific subject, but (1) the gesture specialist is a rare bird indeed — not so much a vanishing species, as one that has hardly yet begun to evolve.

There are two reasons for this. In the first place, gestures have quite wrongly been considered a trivial, second-class form of human communication. Because verbal exchanges are the crowning glory of humankind, all other forms of contact are viewed as somehow inferior and primitive. Yet social intercourse depends heavily on the actions, postures, movements and expressions of the talking bodies. (2) Where communication of changing moods and emotional states is concerned, we would go so far as to claim that gestural information is even more important than verbal. Words are good for facts and for ideas, but without gestures, human social life would become a cold and mechanical process.

(宇都宮大学)

全体に古風な表現が多く、けっして読みやすい(日本語に訳しやすい)英語ではない。
下線部(1)では bird をどう訳すかに苦労する。

構文的には、お馴染みの not so much A as B=B rather than A で基本レベル。

one=もちろん a species (単複同形)

bird は修飾語を伴って「人」の意味に用いることがあるが、それを知らなくても「鳥」という訳にはためらいを感じるはずだ。a clever [an old] bird=利口な[老練な]人, a rare bird=変わったやつ, etc. しかし下線部のダッシュ以下を見ると、「鳥」の意味と重ねていることは明らかなので。「生き物」、さらには「存在」くらいに訳してもよいだろう。

下線部(2)も文構造はごく分りやすいので、問われているのは、単語や idiomatic な表現の知識である。ただし、changing が moods だけにかかるのか、emotional states にもかかるのかは内容から判断するしかないが、少々紛らわしい。

Where≒When, As far as / go so far as to V≒even V

that 節をOとする claim の意味は必須の知識。

more important の前の even [still/yet] を、差の大きさを表す much[far] と混同しないこと。

[全訳]

人間のしぐさの重要性はこれまで著しく過小評価されてきた。言語学の研究者はどこにでもいるし、人間の言語の分析は広く認められた科学の主題であるが、(1)しぐさの専門家は実に珍しい生き物であり、絶滅しかけている種というよりはむしろ、まだほとんど進化し始めていない種なのである。

これには2つの理由がある、まず第一に、しぐさは人間の意思伝達の取るに足りない、劣った形式であると完全に誤解されてきたことである。言葉のやりとりは人類にとって最高の栄誉であるために、他の意思伝達の形式はすべて、どういうわけか劣った、原始的なものと思われているのだ。しかし社会における人と人の交わりは、言葉を話す人間の身体の動作、姿勢、身振り、表情に大きく依存している。(2)気分の変化や気持ちの状態を伝えることに関しては、人は、しぐさが伝える情報のほうが言葉が伝える情報よりもさらに重要であると主張しさえするだろう。言葉は事実や観念を表すのには適しているが、しかし、しぐさがなかったら、人間の社会生活は冷たい、感情のこもらないものになってしまうだろう。

Bertrand Russell argued that a universe under a death sentence* from the second law of thermodynamics rendered human life ultimately worthless. All our achievements, all our struggles, "all the noonday brightness of human genius," as he put it, would, in the final analysis, count for nothing if the very cosmos itself is doomed.

Russel's despairing tone is frequently echoed by contemporary thinkers. Thus the French Nobel-Prize-winning biologist Jacques Monod writes, "Man at last knows that he is alone in the unfeeling immensity of the universe, out of which he has emerged only by chance."

(注) thermodynamics: 熱力学 sentence: 宣告

この10行足らずの英文を一読して、人類にとって古くて新しい、地球外生命の話だと理解できたかどうか。もしそれがさっぱり分らないと、この下線部訳は相当に難しい。わゆる構文的な難解さはまったくないにもかかわらず、しっかりした日本語に訳すには、それなりの力と技が要る。the unfeeling immensity of the universe の unfeeling をどこまで訳すか。

なお, quotation marks も下線部に含まれていることを見落とさないように。

[全訳]

熱力学第2法則によって死の宣告を下された宇宙は、人間の営みを最終的に無価値なものに変えてしまう、とバートランド・ラッセルは主張した。私たちの業績のすべて、私たちの努力のすべて、ラッセルの言う「人間の才能の白日の輝きのすべて」が、まさに宇宙そのものが死を運命づけられているとすれば、結局は、重要ではなくなってしまうだろう。

ラッセルの絶望的な口調は、現代の思想家たちによって度々繰り返されている。かくして、ノーベル賞を受賞したフランスの生物学者ジャック・モノーは書いている。「人間は、無機質の広大な宇宙の中で孤独であり、その宇宙から偶然によって生まれたにすぎないことを、ついに知るにいたる」。

in the final [last] analysis=最終的に、結局は

count [vi] =重要である(文字通り重要な語) count for much [little/nothing]

If it is relatively easy to explain why populations grew so fast after the Second World War, it is much harder to explain why the growth is now slowing. Experts confidently supply answers, some of them contradictory: "Development is the best contraceptive" — or education, or the empowerment of women, or hard times that force families to postpone having children. For each example there is a counterexample. Ninety-seven percent of women in Oman know about contraception, and yet they average more than six children each. Turks have used contraception at about the same rate as the Japanese, but their birth rate is twice as high. And so on. It is not AIDS that will slow population growth, except in a few African countries. It is not horrors like the civil war in Rwanda, which claimed half a million lives — a loss the planet can make up for in two days. All that matters is how often individual men and women decide that they want to reproduce. (岡山大学)

(注) contraceptive: 避妊薬 (用具) empowerment: 力をつけること
counterexample: 反例

パラグラフ全体の趣旨は、先進国における少子化であり、理解しやすい。下線部の構文は、いわゆる強調構文を二つ並べただけで、それほど難しいものではない。ただし、強調構文の that 以下は省略されることがあるという知識がなければ、第2センテンスはまったく歯が立たない。

さらに that の代りに which, who [whom/whose], ときに when, where が用いられることがある、という知識も絶対に必要である。関係詞との混同と言ってしまうまでもだが、けっして稀な例ではない。そもそもこの that は何か。単純化して言えば、まさに接続詞と関係詞の中間に位置するものである。ここでは、それ以上の深入りはしない。ただし、仮主語の It is ~ that ... と強調の It is ~ that ... は次の点で共通する。

まず it で「それは～である」と言っておいて、「それとは ... (のこと)である」と that 以下で具体的に把握することである。したがって、that 以下の内容が前に述べられていれば、当然 that 以下は省略される点でも同じである。強調構文の that 以下の省略については「**下線部和訳**」3 で触れておいたので、仮主語の場合の省略の例を挙げておくが、これは改めて言うほどのことでもない。

Human beings should do their best to save natural resources and live in harmony with nature. It is very important (to do this).

下線部第2センテンスの that 以下の省略を補うと、次のようになる。

It is not horrors like the civil war in Rwanda, which claimed half a million lives — a loss the planet can make up for in two days, that will slow population growth.

つまり、この which は非限定用法の関係代名詞であり、強調構文の that の代りではない。訳に工夫が求められるのは、その which 以下だろう。

[全訳]

人口が第二次世界大戦後これほど急速に増えた理由を説明するのは比較的容易であるとしても、その伸びがいま鈍化している理由を説明するのははるかに難しい。専門家は自信たっぷりに答えを出す、その答えの中には矛盾するものもある。「発展は最高の避妊薬であり」----あるいは教育であり、あるいは女性が力をつけたことであり、あるいは家族に子供を産むのを延期させる経済的な不況である。しかし、それぞれの例に対して反例がある。オーマンの女性の97パーセントが避妊について知っているが、しかし彼女たちは1人平均6人以上の子供を産む。トルコ人は日本人とほぼ同じ割合で避妊具を使ってきたが、彼女たちの出産率は日本人の2倍である、等々。アフリカの2, 3の国を除いて、人口の増加率を減少させるのはエイズではない。50万人の命を奪ったルワンダの内戦のような恐ろしい出来事でもない。50万の命というのは地球が2日で埋め合わせのできる損失なのである。重要なことはただ、いかに頻繁に、個々の男性や女性が子供を産みたいと考えるかである。

But the short story is a very rich literary form. No human thought or feeling, no subject — no matter how familiar or how strange and exotic — no life is foreign to it. It is the writer's talent to strike sharply and directly at the heart of all the problems of human life, because his is the eye which sees freshly and deeply, and the hand which paints meaningfully and beautifully. Even when starting into the face of war, hatred, bias, or degradation, the reader is engaged by his vision, hooked by the image of life the writer creates, and, hopefully, enriched by the experience of the life and art of which he has been a part.

It は to strike 以下を受ける仮主語である。一見すると, to strike 以下の不定詞は the writer's talent にかかる形容詞の働きをしているようにも読めるが, そうすると, It が指すもの, 受けるものが無くなってしまう。It が前の単語や文の内容を受けているとは取れないし, そうであれば, It is ~ that ... の that 以下の省略という解釈も成り立たないからである。

このつながりはクリア出来たとして, 問題は because 以下である。前半は his が何を指しているのか分かりさえすればよい。その場合, 所有代名詞 [独立所有格] は前に出ている語だけでなく, 後から出てくる語も受けることが出来るという知識が有るかどうかがすべてである。このことを知っていれば, his=his eye であることは容易に分かるはずだ。

しかし, and 以下を正しく読み取るには相当な英語力, あるいはそれを補う想像力が必要だ。and の前と後の表現の形から, his is が共通の主語と述語動詞である, 言い換えると, and の後に his is が省かれていることを見抜くのは, そう難しいことではないかもしれない。ところが, ここで his=his eye に捕らわれると, まったく文意が通じなくなってしまう。そこで, and の後に補う his は his eye ではなく his hand の代りだという発想が出来るかどうか。表現上は同じ his is なので省略可能だが, his の中味が違うというのは, 意表をつかれた思いの人が少なくないだろう。英語にはこのような文章表現もあるのだ。

[全訳]

しかし短編小説は非常に豊かな文学の形式である。短編小説と無関係な人間の思考や感情, (どんなにありふれた主題であろうと, あるいはどんなに馴染みがなくて風変わりな主題であろうと) 短編小説と無関係な主題, 短編小説と無関係な人生など存在しない。人生のあらゆる問題の核心を鋭く, 直接突くのは作家の手腕である。というのは, 作家の目は物事を新しい角度から深く見る目であり, そして作家の手は物事を意味深く美しく描く手だからである。戦争や憎悪や偏見や退廃を目の当たりにし始めているときでさえ, 読者は作家の洞察力に引きつけられ, 作家が創り出す人生のイメージに心を奪われ, そして願わくば, 作家がその一部を成してきた人生と芸術を体験することによって精神的に豊かになる。